

「エコテックス (CSM[®]-2000) の標準研究フォーラム」 第3回

発行：エコテックス (CSM[®]-2000) 標準研究フォーラム

広報委員会

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-4-17 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03 (5157) 3180

2002年

7月8日

第3回セミナーのご案内

日時：7月26日（金）午後2時～6時（5時から懇親会）

ところ：エコテック・ジャパン株式会社

挨拶	岡本会長	2:00～2:10
1	第2回セミナーおさらい	2:10～2:40
	サプライチェーン分析：051,052,053,0511,0522	
	ミニマム要求事項：061,062,063,0631～0634	
2	ミニマム要求事項：0641～0645(資料12枚)	2:40～3:20
	休憩	3:20～3:35
3	サプライチェーン分析の具体的説明（資料1枚）	3:35～4:00
	サプライチェーン委託生産基本契約書(資料5枚)	4:00～4:20
4	コンプライアンス価値マーケティング（資料9枚）	4:20～4:50
5	事務局より以下の件を報告します。	4:50～5:15
	5. 1 研究評価委員会・国際対応委員会・セミナー委員会 以上3委員会に関する応募結果及び運営について	
	5. 2 会員企業紹介について アイク(株)、IWS、(株)レナウンアパレル科学研究所、YKK(株)	
	5. 3 その他 最近の情報について	
懇親会		5:15～6:15

※ 前回のお知らせと内容の一部が変更になりました。御了承下さい。

本号より「企業紹介」を添付いたします。

第3回セミナーのご出欠をご連絡頂いておりません企業さまは、至急お知らせ下さい。

アイク株式会社

住所：東京都中央区新川 1-23-5

電話：(03) 5541-2060 (代)

<http://www.aicincjp.com/>

OUR MESSAGE

グローバル・ソーシングのパイオニアとして、21世紀もお客さまと世界の産地とのかけ橋をめざします。

私たちアイクは1979年に日本の大手チェーンストア、イオン、イズミヤなどの共同出資によって設立された開発輸入の専門商社です。

私たちはグループ企業と共同で開発した商品を国内最大級の販売ネットワークを通じてお客様に提供しています。そして、ネットワークの輪は、スーパー、コンビニエンスストア、ホームセンター、ドラッグストア、スペシャリティストアへと広がっています。

私たちの常に変わらぬ目標は、お客様の声をいかに素早く、的確に、商品開発につなげていくかにあります。こうした、目的を同じくする世界中の優良企業とパートナーシップを結び、世界の産地と店舗をダイレクトにつないで、「高品質な商品を低価格」で提供し続けて行きます。

ENVIRONMENT POLICY

私たちは地球に共生する一員として、『環境問題』を重要課題と考え、生活関連用品の開発輸入会社として価値ある商品、サービスの提供を通じて、環境保全活動の推進に貢献していくことを目指します。私たち自身の仕事が環境に与える影響をより低減されるよう全社員で取り組んでいきます。

1. 私たちは環境負荷を低減するため『環境マネジメントシステム』を構築し、環境保全と汚染の予防に取り組めます。
 - A. オフィス内の活動については：
 - 省エネルギー、省資源に取り組めます。
 - 廃棄物の削減と再資源化に取り組めます。
 - 再生利用資材を積極的に活用します。
 - B. 商品の開発、提案及び販売については環境に配慮した商品の提案と普及に努めます。
2. 本社業務活動を通じて環境マネジメントシステムを定期的に見直し、継続的改善に努めます。
3. 環境上の法規制はもちろん環境保全に関して当社が合意した他者との取り決めも忠実に遵守します。

この方針を実践し、維持するとともに、全従業員に周知徹底いたします。

2000年9月28日

アイク株式会社 代表取締役社長

本村 博志

OUR PRODUCTS

アイク株式会社は国内大手チェーンストア、イオン、イズミヤなどの共同出資によって設立された輸入専門商社です。通常の商社は、取り引きごとに取り扱う商品も取引先も異なりますが、私たちはわが国でも屈指のチェーンストアである両社が扱う商品の全てを調達の対象としています。従って、その品揃えは生活のあらゆる分野をカバーしており、「衣料品」「食品」「家庭用品」の3部門を中心に多種多様な商品の開発・輸入活動を展開しています。一方、営業体制でも、各部門の壁を超えた、より効率的な業務プロセスの改革を実践するために、部門別ではなく、「機能別役割分担型」のシステムを導入。営業はプロセスマネージャーとして活動し、消費動向を先取りした買い付け商品の選定やマーチャンダイジングなどに反映する体制を構築しています。そしてさらに、国際分業の前提となる取り引き情報のシステム化や、グループ企業とのマスター情報、メーカーの船積み情報などの国際間情報共有を可能にする EDI システムの構築を推進。発注から納品までを一元化した最適な SCM の推進に、営業・管理部門が一体となって取り組んでいます。そうしたネットワークや物流プロセス、情報システムの改革によって、グループ企業と有力メーカー、そしてアイク間でタイムリーな情報共有を実現。小ロット短サイクルのリピート発注を可能にし、取り引き各社の在庫負担を軽減すると同時に、『売れる』商品を廉価で的確に提供できる独自の商品開発力と調達力を持つ商社として高い信頼を得ています。

OUR NETWORK

世界中を網羅するネットワーク

世界の優れた品々を輸入するためには、グローバル・ネットワークを形成することが必要不可欠です。従来、アイクの商品開発はアジア地域に集中していましたが、消費者のニーズの多様化・高度化に対応するため、企画、素材、デザインなどの商品情報をよりグローバルな視点から取り入れる体制作りを進め、欧米でのチャンネル開拓も積極的に展開。信頼性の高い物流パートナーとの連携によって、情報共有や商品開発及び開発輸入ネットワークの構築を実現しています。そして、より良質で廉価な商品を開発提供するために、香港、上海、北京、バンコク、サンフランシスコの5都市に独自の活動拠点を配置。現地メーカーとの綿密なコミュニケーションを図るとともに、それらを拠点にして世界中を網羅するネットワークを展開しています



□地図上の点をクリックすると取扱商品などの説明が表示されます。

■[オーガニック認定輸入業者資格取得の件\(2000.10.30\)](#)

アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド

(ザ・ウールマーク・カンパニー)

アジア開発センター

1. 沿革

本部は1937年7月に「国際羊毛事務局」としてロンドンにおいて創立。オーストラリアをはじめとする南半球羊毛生産国の羊毛生産者の拠出金をもとに非営利組織として、「ウールマーク」による純毛製品の品質保証ならびに羊毛製品製造技術の研究開発、羊毛新商品開発及び国際的販売促進活動を開始。

その後、「国際羊毛事務局」から「IWS 国際羊毛事務局」さらには、本部を英国ロンドンから豪州メルボルンに移転するとともに1998年7月1日には名称を「ザ・ウールマーク・カンパニー」に改称し、創立当初の活動目標を一貫して継続維持するとともに作業の効率化を進めている。

日本およびアジア地域においては、現在においても英国法に基づき「アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド」が管轄。このため、日本支部は現在「アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド日本支社」として法人登録されている。

日本支社の設立は東京において1953年5月。さらに東京に続いて1962年10月に当時の「愛知県尾張繊維試験場」（現愛知県尾張繊維技術センター）において「国際羊毛事務局一宮技術センター」を開設。「一宮技術センター」は、1997年7月1日にその機能を拡大充実して「IWS 国際羊毛事務局アジア開発センター」に改称。1998年7月1日に「アジア開発センター」として「アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド」の管轄下に入り、現在に至っている。

2. 組織

2-1 上部組織

「アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド」の親組織である「オーストラリアン・ウール・サービセス・リミテッド」(AWS)は、2001年1月1日付けで、従来の豪州羊毛研究開発販売促進機構(AWRAP)が改組されたもので、豪州政府の監督のもと、羊毛税納入羊毛生産者によって運営される法定組織。その活動窓口として本部をメルボルンに置き、傘下に世界の主要国20ヶ国に支部を配置する「ザ・ウールマーク・カンパニー」(アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド)と豪州メルボルンに「オーストラリアン・ウール・イノベーション・リミテッド」(AWIL)を設置。

前者はウールマークやそのサブブランドなどの知的所有権を活用しての羊毛需要促進活動を進め、後者は羊毛税を研究開発に投資する役割を担う組織。アジア開発センターは、組織的には「アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・コンパニー・リミテッド」(ザ・ウールマーク・カンパニー)に属し、一部「オーストラリア・ウール・イノベーション」から資金(羊毛税)を得て活動。

2-2 アジア開発センター (Asian development Centre : ADC)

ADCの主要構成員である技術スタッフで、ADC所長の下、機械及び化学技術部門に分かれ、紡績から最終製品に至るまで全ての羊毛製品製造技術分野をカバーしている。更に、新製品開発に伴う性能評価試験、有料試験サービスを担当するテストング・サービス部門も設置。

一部の職員は、日本の業界パートナーの若手技術者を ADC に招く出向者制度により、2年間の期間 ADC に在職する職員である。インテリア、ウールマーク、スポーツウール・ブレンド部門は、組織的には東京事務所に所属。

3. アジア開発センターの活動内容

現在の ADC 職員数は 17 名(内出向者 6 名)で、各部署の主な業務内容は次の通り。

(1) 機械技術

Sirospun、Solospun、Wool/K-II といった新しい羊毛糸素材の開発、短紡による羊毛／綿糸、他繊維の活用、羊毛不織布など新規素材の開発など物理機械的技術に関連する技術、製品開発。

(2) 織物・アパレル技術

Sirolan BAP、SIROSET、リントラックといった防縮加工、耐久折目付け加工を駆使したマシンウォッシュブル・ウールスラックス、ウールスーツ、さらには、タンブル乾燥可能なウォッシュブル・スラックスの開発、新規開発羊毛糸素材による織物、製品開発など。また、リサイクル・ウールの新規用途開発も担当。

(3) 染色・加工技術

メタル・フリー・ウール染色法、羊毛／綿複合素材の染色、環境保護を考慮したトップの連続式防縮加工法、よりソフトな織物防縮加工法の開発など染色仕上加工技術、製品開発を担当。

(4) テスティング・サービス

各種ウールマーク試験、イージーケア製品性能試験、商品クレーム試験などの有料試験サービスの実施。

(5) 技術情報サービス

「クリンプ」をはじめとする各種羊毛技術関連出版物の発行。現在、「ソロスパン・ガイドブック」、「反応染料に用いた防縮羊毛／綿複合素材の一浴同色染色技術」を販売。

(6) 技術コンサルティング

製品トラブルや技術導入に関する技術コンサルティングの実施。

(7) インテリア・テキスタイル

丸洗い羊毛ふとん、洗える羊毛毛布、豪州羊毛によるウールカーペットなどのインテリア製品開発ならびにマーケティングに従事。

(8) スポーツウール／ブレンド事業部

ウィッキング性能にすぐれた羊毛／ポリエステル素材を使ったスポーツウール素材の開発とマーケティング。また、ウール／ソアロン、ウール／ソロ、ウール／和紙などの新規羊毛複合素材の開発とマーケティング。

(9) ウールマーク部／ウールマーク製品管理

品質保証マークとしての認知度の高いウールマークさらにはウールマークブレンド、ブレンドマーク製品の試験方法、性能基準、品質管理などを担当。

所在地：アイ・ダブリュー・エス・ノミニー・カンパニー・リミテッド日本支社（ザ・ウールマーク・カンパニー）

171-0033 東京都豊島区高田 3-37-10 ヒルサイトスクエア O.R.E.

電話；03-5950-9376

アジア開発センター 491-0904 愛知県一宮市大和町馬引宮浦 35

電話：0586-44-9029

<http://www.wool.com>

<http://www.wool.co.jp>

<http://www.woolmark.gr.jp>

YKK CORPORATION

本社：東京都千代田区神田和泉町1

電話：(03) 3864-2000

グローバルビジネスセンター：東京都渋谷区代々木 2-1-1 新宿マインズタワー 3 2 F

電話：(03) 5352-1511

<http://www.ykk.com/>

YKKグループの目指すもの ~時代の大きな潮流の中で~

世界はますますグローバル化が進み、オープンで公正な社会へと着実に移り変わっていく中で、YKK グループは自らのアイデンティティを、「公正で安心してお付き合い頂ける会社」「新たな価値を創造する技術の会社」そして、「国際的な会社」とし、これを基軸に 21 世紀初頭での具体的な企業像と目標を描く作業を進めています。

現在 YKK グループは、世界の約 60 カ国で事業展開を行っており、グローバルマーケティング機能の強化を図っておりますが、当グループへの期待はたいへん大きいものがあります。これからも一層「国際的な会社」として認知され、社会に貢献できる企業を目指していきます。

GROUP ACTIVITIES

事業紹介

YKK グループは、YKK 株式会社をマザーカンパニーとして、建材事業とファスニング事業を中心に、国内外 60 カ国 115 社でグローバルに事業を展開しています。

YKK アーキテクチュラルプロダクツ株式会社は、YKK AP をブランドとする建材事業の中核を担い、YKK AP グループ各社との密接なネットワークによって、建材事業を推進しています。

また、工機事業は、YKK グループの技術力の要として、建材・ファスニング両事業の一貫生産を支えています。同時に、研究開発部門では、これらの事業と幅広く係わる最先端の素材や、テクノロジーなど、さまざまな研究開発が進められています。近年では、YKK はファスナーとアルミ建材で長年培ってきた技術を生かし、光部品のコネクタなどの販売生産も行っています。

FASTENING PRODUCTS

ファスニング事業

ファスニング事業では、商品別にファスナー事業部、スナップ・ボタン事業部、繊維・樹脂製品事業部の 3 事業部体制によって、市場からの要望にフレキシブルにお応えしています。また世界の事業エリアを、北中米、南米、EMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカ・をカバーするエリア）、東アジア、ASAO（アセアン・南アジア・オセアニアをカバーするエリア）、そして日本の 6 極に分け、地域ごとの特性を活かしながら、グローバルマーケティングを展開しています。そのキーステーションである東京新宿の「グローバルビジネスセンター」では、刻々と変化するマーケティング情報を集約し、世界のニーズへの対応が行われています。

SLIDE FASTENER DIVISION

ファスナー事業 グローバルスタンダードでありつづけるために。

これまでの YKK のファスナーは、徹底した品質管理と一貫生産システムのもと、世界規模でのグローバルスタンダードとして信頼を確立してきました。21世紀に向け、新たに韓国、スリランカ、ポーランドに生産拠点を構え、また中国やベトナム、インドのアジア地域をはじめトルコ、メキシコなどでの生産強化を行うなど、より地域とユーザーに密着した形で、更なる世界品質を目指し、積極的な拠点戦略を展開しています。

SNAP FASTENER AND BUTTON DIVISION

スナップ・ボタン事業 多様化するニーズにスムーズに対応。

スナップ・ボタン事業部門では、1999年より新たなサービス体制で事業展開している日本・アジア地域、そして北中米地域とヨーロッパ地域の世界を大きく3つのグループとして、供給体制を構築しています。そして、香港の「S&B アジアマーケティングセンター」が、アジア地域を中心とした国際ネットワークの強化を推進しています。更なる品質の安定とサービス体制を強化し、多様化するニーズへのスムーズな対応を図っています。

TEXTILE AND PLASTIC PRODUCTS DIVISION

繊維・樹脂製品事業 時代に沿った新しい付加価値づくりへ。

繊維・樹脂製品事業の事業品目は、面ファスナー、繊維テープそして樹脂製品の3品目です。またこれらの3品目を複合した新しい機能製品など、市場創造型開発にも力を入れています。世界6極体制において、それぞれの地域に密着した商品開発を行っており、特にアジア地域では香港の「T&P アジアマーケティングセンター」を核としてマーケティング体制を強化し、新しい時代に沿った付加価値づくりを推進しています。

EXPANDING INTO NEW FIELDS

新分野への展開

これまで培った YKK グループの技術とノウハウは、従来の業務範囲を超えて、世界各国での地域環境に貢献できる事業の開拓を目指し、さまざまな可能性に生かされています。シンガポールでの住宅環境に対応したコンドミニアムの開発をはじめ、香港では地元企業への賃貸に供する工業ビルの建設、またブラジルでは大型農業開発事業も軌道に乗り、コーヒー・米などの農作物や肉牛の飼育も順調で、地域社会に根ざした事業が展開されています。国境を超え、民族を超え、分野をも超えて、YKK グループの新しい活動がさらに大きな可能性を育てています。

YKK GROUP LINK

YKKグループリンク



YKKグループ会社	世界60カ国115社
海外現地法人	世界59カ国92社
	(89工場など計251拠点)

<http://www.ykk.com/ykkgroup/link.html>

株式会社レナウンアパレル科学研究所のご案内

ISO 9002 認証取得機関

工業標準化法認定試験事業者



試験機器一覧

キセノンフェードメータ
紫外線フェードメータ
洗濯堅牢度試験機
パスピロメータ
学振形摩擦堅牢度試験機
引張試験機
ミューレン形破裂試験機
ユニフォーム形摩耗試験機
マーチンデール形摩耗試験機
ユニバーサル形摩耗試験機
目寄れ試験機
ICI 形ピリング試験機
スナッグ試験機
通気性試験機
ラローズ法吸水性試験機
プレス試験機
恒温恒湿室 他

名称 株式会社 レナウンアパレル科学研究所（略称 アパケン）
RENOWN APPAREL INSTITUE INCORPORATED

代表者 社長 小宮 敏夫

設立 1998年3月2日（株式会社 レナウンより分社独立）
（1962年設立のレナウン総合研究所が前身）

住所 〒153-006 東京都目黒区目黒2丁目15番17号 3, 4階

電話 (03) 3710-7131 Fax: 03-3791-9644

社員 約40名

私たちアパ研は、ISO 9002 認証取得し、工業標準化認定試験事業者で公平中立を基本に考えている会社です。自ら厳しい品質マネジメントシステムを構築し、品質評価業務に取り組んできました。1999年1月末にISO9002の認証を取得し、2000年6月にJNL Aの審査を受けて工業標準化法に基づく試験事業者として通商産業大臣より認定を受けました。

品質方針

株式会社レナウンアパレル科学研究所は、お客様（エンドユーザー）に一定水準の品質保証と法律を遵守した商品を提供するために、商品の的確な品質評価を行い、顧客の満足と信頼を得ると共に、レナウングループ及び社会に貢献する。

上記品質方針を達成するために

- ①お客様の品質要求を的確に把握すること。
- ②業務は、迅速、正確、安価に遂行し、評価は公正中立であること。
- ③弛まぬ技術の向上に励み、最新の技術を提供する。

業務内容

繊維製品の品質性能を評価する試験及び証明

染色堅牢度、寸法変化率、混用率、各種物性等の試験及び結果について必要とする成績書、報告書の発行

繊維製品の品質表示に関する指導

家庭用品品質表示法に基づく繊維製品の組成表示、取り扱い絵表示
製品の安全性、取り扱い上の注意表示、警告表示

クレーム原因調査

事故原因究明、クレーム処理、PL対策等

品質改善に関する指導

品質管理、品質改善の指導

●山の手線恵比寿駅下車

徒歩約15分

●日比谷線・東横線中目黒駅下車

徒歩約15分

恵比寿駅

レナウンルック マイクロバス

五反田行きバス 中里橋下車

中目黒駅

大井町行きバス 目黒警察署下車



皆様のご依頼・ご相談をお待ちしております。